

研究部だより

秋田県立栗田支援学校
全校授業研究会より
令和5年8月24日発行

本校の全校授業研究会では、対象授業を基に、子どもの学んでいる姿から「〇〇ではないか」「〇〇かもしれない」と、対象生徒を多角的な面から丁寧に見取り、授業改善につなげていくことを目指しています。今回の研究便りでは、7月10日に行われた中学部の全校授業研究会について紹介します。

7月10日(月)	中学部3年 進路Aグループ 生活単元学習(進路学習) 「働くってどんなこと？」
学習内容	本単元では、身近で働く人やこれまでの学習に関わりのあった人へのインタビューを繰り返し、働くことについて理解を深める。本時は、事前に実施した伊徳川尻店でのインタビューの内容をペアやグループで振り返り、スーパーの部門ごとの仕事内容や必要な力などを付箋紙で整理した。各部門のインタビュー結果を見て、共通する「必要な力」をまとめた。
目指す姿ねらい	① 働くために必要な力について知り、どの仕事にも共通している力を見付ける。 ② インタビューをして分かったことを短い言葉で分かりやすくまとめる。

子どもの姿①

インタビューの様子を撮影した動画を見て、インタビューの答えを振り返りながら気付いたことをたくさん付箋紙に書いていた。

グループの解釈①

インタビューしたことをまとめる活動を積み重ねているので自信をもって活動しているのではないか。

授業改善に向けて

- タブレットでの振り返り、繰り返しの学習活動はよい。ペアやグループで学習することの意図を明確にしていく。
- 働くことを含めた「将来のこと」を肯定的に捉えられるような単元計画、学習内容を考えていく。

■指導助言■ (秋田大学教授 前原和明先生より)

○授業について

子どもたちが仕事について考える機会を様々な形(インタビュー、見学、動画での振り返り)で提供しており、経験したことを言葉でまとめて他者に発表する活動があつてよかった。少しでも子どもたちが仕事に関心をもち、自信をもって活動できるようにという意識が見えた。その上で、仕事について考えられなかったり、自己理解でつまづいたりしたときは、その意味をよく考える必要がある。単に障害や背景のせいだけでなく、個々の子どもにとってなぜできないのかをよく考えて対応することが大切だと感じた。

○自己理解について

社会参加に向けた自己理解を考える際には、できること・したいこと・社会の側面(社会から求められること)の3つの輪が重なる部分を考えなければならない。とくに、社会の側面について考えるとき、子どもたちのやりたいことがどんどん狭まっていき、できないことを発見するための自己理解になってしまったりすることがある。そのような葛藤を経ながら、社会参加が間近な高等部段階では輪の重なりを自分に合わせて鋭くしていくイメージ。中学部段階までは、それぞれの輪を大きくして重なりを広げていくことが大切である。

子どもの姿②

まとめのワークシートの「スーパーで働いてみたいですか？」という問いに「今は働きたくない。」と書いていた。

グループの解釈②

実際に働く様子を見たり聞いたりしたこと、働くことの大変さを実感したのではないか。

グループの解釈③

やりたくないというより、今の自分にはまだできないと思ったのかもしれない。

